

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）2014 年度教育研究報告書

事業課題名	ゾミア地域における少数民族の社会経済動向に関する研究
代表者名	東南アジア研究所・教授・藤田幸一
事業概要 (600 字程度)	<p>シェンデル(William van Schendel)が提唱し、スコット(James Scott, 2009)で一躍有名になった「ゾミア」は中国貴州省・雲南省から東南アジア大陸部北部をへてインド北東諸州やバングラデシュのチッタゴン丘陵部までの山岳地帯で、「国家から逃避してきた」とされる多様な少数民族の居住地域である。近年、中国の「南下政策」が顕著になるなか、インドも対抗して勢力を「東進」して伸ばしつつある。同地域の少数民族の運命はどうなるのか？彼らは事態の動きに対していかに主体的に対応しようとしているのか？中国、ベトナム、ラオス、ミャンマー、インド、バングラデシュなど異なる国家の体制と政策は、彼らにいかに異なる影響を与えているのか？</p> <p>以上のような問題関心の下、日本全国から先端的な研究者や大学院生を招聘し、研究会を通じて知識や経験の蓄積をねらうのが本事業である。将来のより大掛かりな研究プロジェクトの組織化をめざし、ネットワークを構築・発展させることを目標とする。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>期間中 2 回の研究会を開催した。</p> <p>第 1 回研究会 日時:2015 年 2 月 24 日午後 2 時～5 時 30 分 会場:稲盛財団記念館小会議室 I 発表:久保忠行(立命館大学)「現代のゾミア？カヤー(カレンニー)世界の人の移動と民族の動態」 今村真央(京都大学東南アジア研究所)「カチンとキリスト教—プロテスタンティズム宣教運動の言語観と組織力」</p> <p>出席者数:8 名</p> <p>第 2 回研究会 日時:2015 年 3 月 9 日(月)午後 2 時～5 時 30 分 会場:稲盛財団記念館 2 階 201 号室 発表:畢世鴻(雲南大学)「テインセイン発足以来の中国・ミャンマー関係」 藤田幸一(京都大学東南アジア研究所)「ミャンマー・シャン州チャウメーのシャン族農村の土地利用、生業、農村金融」</p> <p>参加者数:12 名</p> <p>予算が承認されてからの準備期間が短かったため、研究会の組織化にやや手間取ったとはいえ、2 回の研究会による「ゾミア研究会」の滑り出しは順調で、成功裡に終了した。特に、東京大学社会科学研究所に客員教授で来日されている雲南大学の畢教授を招聘して貴重な話を聞くことができた点は大きな成果であった。1 回の研究会で 1 人は外部、もう 1 人は内部という構成も、外部の研究者にもより大きな刺激を与えるという意味で高い評価を得た。「ゾミア」についての研究学術ネットワーク構築は順調に進んでいるといえ、関連で「挑戦的萌芽」科研も採択され、両者が連携することにより、海外からも研究者を招聘することができる見通しがついたことは、2015 年度の活動にとっては果報である。</p>